

刊夕日三廿月七

常磐每日新聞

定価一紙五錢 一月五拾五錢 郵費五錢
廣告料五錢 二字五錢 一行五拾五錢
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

日本精神と神社 (一)

石城郡神社總代人大會席上演筆記

國學院大學教授 河野省三

只今御紹介を得ました河野で御座います、今日は軍人勅諭御下賜五十年記念祝典日の目出度此の日に本郡各神社氏子總代人の澤山の皆さんにお目懸つて一場のお話を申上げることば誠に仕合せに存する次第であります。

葉が非常に多く使はれて居るやうに思ふのであります。使ふべき場合に使ふのでなくしてお宮のお祭りであるとか、何々祭とかと云ふ場合ならば當りまへのことで少しも不思議はありませぬが、お宮のお祭りでも何でもないので、何々祭とか何々祭とか言ふ言葉を使ふことが盛んに行はれて居る。これは所謂一種の流行語であつて興味ある現象であると思ふのであります。

例へば毎年四月八日に行はれるお釋迦様の御誕生を記念する催し、あれは櫻の花の咲く頃でありまして従來花供養と稱せられてゐたものであるが、近頃はこれを花祭と稱して居る、三月三日は昔は雛遊びと申して居りましたが、近頃は雛祭りと云ふてをる、昨年三月廿六日でありましたが、天皇陛下が復興した東京市中を御巡幸になりましたが、市民は夫れを喜んで賑やかな色々々催しを致しました。あれを復興祭と申して居りました、すると多くの商人たちが早速廣告の行列をや

軍人勅諭の五ヶ條は即ち日本精神であります、大正六七年頃より國民の或る一部に思想がぐらつきかけて來たが、昨年の秋滿洲事變が發突して以來國民思想に變化來たし此れを比較すれば興味多い事であり、日本は如何なる國なるかを知られたるは滿洲事變の突發によつて大に日本精神表現せられたるによります。日本人よりも外人の方が日本精神を考究する事となり日本人の勇敢なるは我が神道のより來る物と考究したのであります。正しく明るい社會を求め事人類の自然要求であります、近頃私共の目につくと申しますか能く氣のつく言葉の中に「マツリ」と云ふ言葉若しくは字音の「サイ」と云ふ言

りまして廣告祭と云つて居つた、別にお祭りをやつて居る譯ではございませぬ、毎年十一月頃になるとスポーツが盛んで全國到る所で体育上の催しがある、之れを今までは体育デーと云つて居りましたが、昨年からは運動祭と云つて居る昨年十二月に東京の日比谷の音楽堂で盛んな音楽の合奏があつた、それを合唱祭と云つて居る、何んでも彼んでも祭りと云ひ祭と云うてをる、不動尊の御開帳と云つて居つたのが昨年其の廣告を見るに不動尊例祭と書いてあるまるで供進使でも參向するかと思はれる様であります。

皆さんなせ斯う云ふ祭とか祭りと云ふ言葉が流行するのであるか、言葉の流行するのは決して無意味に流るものではない、然らば茲に祭とか祭りと云ふ言葉の流行ると云ふことに就ては、皆さんは何う云ふ御判断をなさるか、私は之を以て極めて興味ある而も重要な國民思想の一つの傾向であると考へる。

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五七〇番

質物一般 各種債券類

三井質店

平町四丁目川岸 電話六〇六番

外科

専門線 X 科

上田外科醫院

平町南町 電話一二九番

土用の丑

うなぎの御用命は

専門の江戸川

電話五四七番

提灯

御新佛御供養の

御法名入提灯の大奉仕

瓜形 一對房付 金一圓五十錢より
角形 同 金一圓九十錢より

其他岐阜提灯種々取揃へてあります
是非御下命は電話九五番

平四丁目

スガノヤ提灯店

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

季節御料理

柳川 一人前 金二十五錢
うなぎ 金三十五錢
蒲焼 金五十錢
金五十錢より

右大々勉強出前迅速
◎滋養豊富!風味美味!
是非一度御試食を
大蒲焼・鳥料理
壽司・折詰仕出し
魚 榮

田町電話四二四番

本場新茶入荷

川根 一斤に付、四〇より 一一、〇〇まで
新家庭用ほうじ茶 斤 六〇 四半斤 一五錢 斤 四〇 一〇錢

香味本位の本場録茶

召上りませ

大勝園

電三九六番

貸金

何人にも簡易に

即時御用立致します

國庫、勸業、復興債券、高級質札買入並金融、恩給、年金及簡易保險(前借失効可)即時立替、債券取立

▼御報次第店員參上秘密融通

平町南町(廿三夜側)

伊東

稻熱病發生か

雨天後俄に氣温上昇して 郡農會豫防通告

石城郡下本年の稻作狀況は苗代當時より挿わうも概して順調に進み従つて發育好良であつたので今年も多分豊年であらうと見込んでつたが天候が著しく冷下して雨天続きや、軟弱の發育をなしたつた處俄かに天候回復し氣温が上昇し來つたので郡下一帯に稻熱病の發生の恐れあるので郡農會では近く豫防方法の通牒を發し豫防奮勵をなすことになつたなほ豫防方法は左の通りである

前及び前穂捕期の二回に六斗式過石灰ボルトウ液を散布すること

一、穂たけ期に落水不足して水田龜れつる場合は以て漸漉水の不足せざるやう注意し又灌水期は一週間乃至十日間位遅延せしむること

一、局部的發病したる場合は病葉を摘採燒棄して傳ばん防止すること

一、氣温冷涼にして曇天連續せる場合においては灌漑水を排除し又は掛け流をなすときは地温低下して生育をおくらせるから適量の水をたへおくこと

一、灌漑水は出來得る限り水温を高める方法を講ずること

一、稻の生育特に遅延せる地方は天候回復するも室素肥の追肥を避けること

一、葉稻熱病の兆あるときは「カゼイン」石灰加用四斗式は過石灰ボルトウ液を散布すること

一、葉稻熱病の發生甚だしい處は稻首稻熱病發上のおそれある場合は出穂直

一、葉稻熱病の發生甚だしい處は稻首稻熱病發上のおそれある場合は出穂直

一、葉稻熱病の發生甚だしい處は稻首稻熱病發上のおそれある場合は出穂直

稲作好望

相場下落

天候回復と共に石城郡下の稲作好望され初めたので平穀物検査支所管内の取引相場は去る十七日迄四等米値一段一俵八圓三十錢前後にあつたものが十八日以後八圓

石城各濱の鯉漁は最近漸やく小名濱沖合百哩乃至百五十哩に接近し

其の水揚は殆んど小名濱が獨占して三四割の水揚相場を見て居るまた四倉町の稻荷丸は去る廿一日豊間沖合十二哩の地点で二千貫餘の鯉を

漁獲して本縣近海に於ける大漁のトップを切る等愈々本調子の漁期に入つたが漁獲鯉は八分通り汽車便で東京及中通り方面に移出されるので平町への搬出は案外に少なく五割の相場を見て居ると

月替中グラウンドに於て開れる第三區各小學校尋常科第五學年以上の陸上競技大會に優勝すべく今夏休中猛練習を行ふ事になつたが各學年の選手候補者は左の如くである

△百米(五年)黒井裕助 山崎福次郎 小谷磐夫 小林重三 小川一郎 星野高(六年)緑川浩行 佐藤喜一 高山常一 柴田征太郎 中島利夫 塚本慶治

△二百米(高一)井上朝石 川武男 高木正行 齊藤常吉(高二)君島敏雄 高羽繁夫 石川勇三 齊藤武男 橋谷田勝男 入江友治

△四百米リレー(五年)黒井裕助 山崎福次郎 小谷磐夫 小林重三 小川一郎

移出向の白菜栽培

石城郡平窪村農會では此程村内農事實行組合と連絡をとつて移出向白菜の栽培を奨励する事になつたので近く役員會を開會して種の共同購入を行ひ品種の統一を計る

△八百米リレー(六年)緑川浩行 佐藤喜一(高一)井上明 石川武男(高二)佐藤勝藏 君島敏雄 石川勇三 齊藤武男

△走山跳(五年)山崎福次郎 黒井裕助 佐藤満夫 鈴木光行 中村勝一 東條正一 緒方惟孝 會川忠弘

△走高跳(六年)鈴木金治 會田長太郎 新妻喜雄 山崎道雄 小林正久 鈴木三郎 岩崎久郎治 渡邊清吉(高二)齊藤兵策 富田芳郎 野澤正雄 吉田武男

△ハードル(六年)矢吹義一 阿部保三 先崎光一 △三段跳(高一)細川圭造 千葉一 吉村清 深谷民之助(高二)猪狩五郎 天下井勇明 渡邊静之 福田保夫 △バスケットボール(五年) 田中忠太郎 關内弘吉

△走山跳(五年)山崎福次郎 黒井裕助 佐藤満夫 鈴木光行 中村勝一 東條正一 緒方惟孝 會川忠弘

漁場接近し 鯉漁本調子

石城各濱の鯉漁は最近漸やく小名濱沖合百哩乃至百五十哩に接近し

其の水揚は殆んど小名濱が獨占して三四割の水揚相場を見て居るまた四倉町の稻荷丸は去る廿一日豊間沖合十二哩の地点で二千貫餘の鯉を

漁獲して本縣近海に於ける大漁のトップを切る等愈々本調子の漁期に入つたが漁獲鯉は八分通り汽車便で東京及中通り方面に移出されるので平町への搬出は案外に少なく五割の相場を見て居ると

月替中グラウンドに於て開れる第三區各小學校尋常科第五學年以上の陸上競技大會に優勝すべく今夏休中猛練習を行ふ事になつたが各學年の選手候補者は左の如くである

△百米(五年)黒井裕助 山崎福次郎 小谷磐夫 小林重三 小川一郎 星野高(六年)緑川浩行 佐藤喜一 高山常一 柴田征太郎 中島利夫 塚本慶治

△二百米(高一)井上朝石 川武男 高木正行 齊藤常吉(高二)君島敏雄 高羽繁夫 石川勇三 齊藤武男 橋谷田勝男 入江友治

稲荷丸が大漁 續々他地へ輸送

石城各濱の鯉漁は最近漸やく小名濱沖合百哩乃至百五十哩に接近し

其の水揚は殆んど小名濱が獨占して三四割の水揚相場を見て居るまた四倉町の稻荷丸は去る廿一日豊間沖合十二哩の地点で二千貫餘の鯉を

漁獲して本縣近海に於ける大漁のトップを切る等愈々本調子の漁期に入つたが漁獲鯉は八分通り汽車便で東京及中通り方面に移出されるので平町への搬出は案外に少なく五割の相場を見て居ると

月替中グラウンドに於て開れる第三區各小學校尋常科第五學年以上の陸上競技大會に優勝すべく今夏休中猛練習を行ふ事になつたが各學年の選手候補者は左の如くである

△百米(五年)黒井裕助 山崎福次郎 小谷磐夫 小林重三 小川一郎 星野高(六年)緑川浩行 佐藤喜一 高山常一 柴田征太郎 中島利夫 塚本慶治

△二百米(高一)井上朝石 川武男 高木正行 齊藤常吉(高二)君島敏雄 高羽繁夫 石川勇三 齊藤武男 橋谷田勝男 入江友治

兒童競技 選手候補

月替中グラウンドに於て開れる第三區各小學校尋常科第五學年以上の陸上競技大會に優勝すべく今夏休中猛練習を行ふ事になつたが各學年の選手候補者は左の如くである

△百米(五年)黒井裕助 山崎福次郎 小谷磐夫 小林重三 小川一郎 星野高(六年)緑川浩行 佐藤喜一 高山常一 柴田征太郎 中島利夫 塚本慶治

△二百米(高一)井上朝石 川武男 高木正行 齊藤常吉(高二)君島敏雄 高羽繁夫 石川勇三 齊藤武男 橋谷田勝男 入江友治

△四百米リレー(五年)黒井裕助 山崎福次郎 小谷磐夫 小林重三 小川一郎

△八百米リレー(六年)緑川浩行 佐藤喜一(高一)井上明 石川武男(高二)佐藤勝藏 君島敏雄 石川勇三 齊藤武男

△走山跳(五年)山崎福次郎 黒井裕助 佐藤満夫 鈴木光行 中村勝一 東條正一 緒方惟孝 會川忠弘

性源寺 上棟式

来る廿五日に七万圓の工費を以つて新築工事を急いで居た平町長福町性源寺は愈よ来る廿五日午後一時より上棟式を舉行すると

△走高跳(六年)鈴木金治 會田長太郎 新妻喜雄 山崎道雄 小林正久 鈴木三郎 岩崎久郎治 渡邊清吉(高二)齊藤兵策 富田芳郎 野澤正雄 吉田武男

△ハードル(六年)矢吹義一 阿部保三 先崎光一 △三段跳(高一)細川圭造 千葉一 吉村清 深谷民之助(高二)猪狩五郎 天下井勇明 渡邊静之 福田保夫 △バスケットボール(五年) 田中忠太郎 關内弘吉

平町人事

△研町一安齊傳七氏四女 美榮子

△白銀町三五菅井廣大氏四女 ヨシエ

△東京市淺草區石濱町二村 松英祐氏(二九)平町久保町二五田卷テロヨ(二二)

受驗講習

既報磐城中学校にては本日より受驗生の爲め英語、數學、漢文等の夏季講習會を開始したが出席者は十七名にて昨年と大差がないと

△走山跳(五年)山崎福次郎 黒井裕助 佐藤満夫 鈴木光行 中村勝一 東條正一 緒方惟孝 會川忠弘

△走高跳(六年)鈴木金治 會田長太郎 新妻喜雄 山崎道雄 小林正久 鈴木三郎 岩崎久郎治 渡邊清吉(高二)齊藤兵策 富田芳郎 野澤正雄 吉田武男

お天気様々 製氷會社喜ぶ

俄かに襲來した暑さで今迄開店しても客のなかつた市内の水屋さんがこの時と許り猛烈な營業戰を開始した結果一日十五噸の製産能力ある氷の大元締平製氷會社で先頃迄は一日に二百貫位より外市内の配給が

△走山跳(五年)山崎福次郎 黒井裕助 佐藤満夫 鈴木光行 中村勝一 東條正一 緒方惟孝 會川忠弘

△走高跳(六年)鈴木金治 會田長太郎 新妻喜雄 山崎道雄 小林正久 鈴木三郎 岩崎久郎治 渡邊清吉(高二)齊藤兵策 富田芳郎 野澤正雄 吉田武男

美味! 芳醇!

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

△走山跳(五年)山崎福次郎 黒井裕助 佐藤満夫 鈴木光行 中村勝一 東條正一 緒方惟孝 會川忠弘

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】
悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第百九席

眞庭念流の達人櫻井五助

皮財布に七十餘兩

伊草村の百姓家で豪家の旦那方が集まつて賭場をしてゐる、それには博奕打が七八人で世話をしておます。そこへ行つた象藏に仙太郎が長脇差をギリと抜いてツカ／＼踏み込み

象「客人、静かにしろ騒ぎ立てると打切るぞ、誰が貸元だか知らねえが、俺が此の場合から客人の懐中を借て行く、好いかヤイ／＼騒ぐなこの脇差は切れるぞ」

象「客の財布なら五十兩だ、皮の財布だけに大分あるやうだ、いや有難うございませう、誰方もお静かにお臥みなさいませう」

象「さうだ、こんなにはあるめえと思つた藤藏や源太郎はねえやうだな」

象「見えませんよ」

象「あいつがゐたらこう素直に場金や客人の懐中は渡すめえ、何んにしても大漁だつたさア上尾へでも出掛けよう」

象「林藏程の男ですが因縁と云ふか兎角山城屋の遊女おやまを忘れ兼ね上尾に來ると足立屋と云ふ揚屋からおやまを呼ぶ、又山城屋へも行く、おやまはどうして林藏が歸つて來たかと段々聞くと今度猪之松を殺した事が内濟になつて無事に故郷に歸つて來たとの話、多勢の子分もあり乍ら猪之松の敵を目の前に見つ、助け置くと腰の抜た奴と思ひました、此方は勤めの身、金で自由になる境涯、林藏を容れしない譯にはなりません、口惜いが親分よく歸つて來ておくれなすつたと心で泣いて笑顔を見せる、林藏は惚れてゐる女の事おやま／＼と愛し多分の金使ふ、お話別れて此方は山毛谷戸の源太郎です、林藏が賭場を渡つた其の晩は病氣の爲に引籠つて居りまして、自分の吾八に久六の二人を代貸元に出して置き玉子酒を飲んで寝てゐた

○「親分吾八さんが來ました」



象「サア場金と客人の懐中は借て行くぞ、俺は旅人で急がしい身體だ、氣の毒だが貸て呉れ」

象「さうだ、こんなにはあるめえと思つた藤藏や源太郎はねえやうだな」

象「見えませんよ」

象「あいつがゐたらこう素直に場金や客人の懐中は渡すめえ、何んにしても大漁だつたさア上尾へでも出掛けよう」

象「林藏程の男ですが因縁と云ふか兎角山城屋の遊女おやまを忘れ兼ね上尾に來ると足立屋と云ふ揚屋からおやまを呼ぶ、又山城屋へも行く、おやまはどうして林藏が歸つて來たかと段々聞くと今度猪之松を殺した事が内濟になつて無事に故郷に歸つて來たとの話、多勢の子分もあり乍ら猪之松の敵を目の前に見つ、助け置くと腰の抜た奴と思ひました、此方は勤めの身、金で自由になる境涯、林藏を容れしない譯にはなりません、口惜いが親分よく歸つて來ておくれなすつたと心で泣いて笑顔を見せる、林藏は惚れてゐる女の事おやま／＼と愛し多分の金使ふ、お話別れて此方は山毛谷戸の源太郎です、林藏が賭場を渡つた其の晩は病氣の爲に引籠つて居りまして、自分の吾八に久六の二人を代貸元に出して置き玉子酒を飲んで寝てゐた

○「親分吾八さんが來ました」

○「今晩は柔順しく元氣所

○「何處へ行く」

た「源「何だ今頃來たは、こつちへ通せ」
息を切つて入つて來た吾八「親分大變な事が始まりました」
源「喧嘩でも出來たか」
吾「イエ喧嘩ではございません、今しがた旅人が飛込んで來ました客人の懐中を洗ひ上げその上場金を引渡つて行きました、何しろ私に久六とその他五六人しか場に出て居りませんから何うすることも出來ず彼奴等のなす儘にして置きました、ございませう」
きまり悪氣に云ひました。

た「源「何だ今頃來たは、こつちへ通せ」
息を切つて入つて來た吾八「親分大變な事が始まりました」
源「喧嘩でも出來たか」
吾「イエ喧嘩ではございません、今しがた旅人が飛込んで來ました客人の懐中を洗ひ上げその上場金を引渡つて行きました、何しろ私に久六とその他五六人しか場に出て居りませんから何うすることも出來ず彼奴等のなす儘にして置きました、ございませう」
きまり悪氣に云ひました。

た「源「何だ今頃來たは、こつちへ通せ」
息を切つて入つて來た吾八「親分大變な事が始まりました」
源「喧嘩でも出來たか」
吾「イエ喧嘩ではございません、今しがた旅人が飛込んで來ました客人の懐中を洗ひ上げその上場金を引渡つて行きました、何しろ私に久六とその他五六人しか場に出て居りませんから何うすることも出來ず彼奴等のなす儘にして置きました、ございませう」
きまり悪氣に云ひました。

た「源「何だ今頃來たは、こつちへ通せ」
息を切つて入つて來た吾八「親分大變な事が始まりました」
源「喧嘩でも出來たか」
吾「イエ喧嘩ではございません、今しがた旅人が飛込んで來ました客人の懐中を洗ひ上げその上場金を引渡つて行きました、何しろ私に久六とその他五六人しか場に出て居りませんから何うすることも出來ず彼奴等のなす儘にして置きました、ございませう」
きまり悪氣に云ひました。

運動靴は……
月星
品質は斯界の王
名入れ金具付きの
サーピス
平田町
大塚運動具部
電話七七七番

看護婦急派
の求めに應
じます
平二町南町
平看護婦會
電話三〇七番

例年の通り
氷水 始めました
多少に拘ず御用御引立の程願上ます
特・アイスクリーム(山盛) 金十銭
・あづきアイス(同) 金五銭
・ミルクケーキ(同) 金十五銭
・ソーダ水 金十銭
其他氷水各種
出前迅速
藤寅
平一丁目
電話一四一番

吉田眼科病院
平紺屋町、電話六八番
全國知名新聞 こんなヨイクスリを未だ知らな
雑誌 推奨 い方がありませうか
右は岩里家古來よりの家傳秘法薬にして男女血らし
慢性淋病、こしけ、濁濁の病みは不思議に止り連服
するも絶対胃腸傷害なき各葉であります。
尚ほ此の薬は責任速効薬で二日内服して効なき時は
殘薬引換に全部異議なく返金します。
論より證據服した人は皆全快喜んで居ります。慢
性、悪性の人は七日以上服差して下さい。
美本淋病治療書無代進呈、此の新聞各記入申込者に
付前金申込者には送料無料、新品送達す。
代金引換廿三銭手数料金納の事。
薬價 急性用(黒箱) 一週分 參圓
慢性用(赤箱) 一週分 五圓
特約 一 平町古鍛冶町一〇
手販賣 阿康藥舖
縣社ノ下(電話四四番)